

UK のドッグショーとは

これまでもスタッフオードシャープルテリア (SBT) に興味のある一人として本場であるイギリス (UK) のドッグショーやチャンピオン (CH) についてはそれなりに興味を持って調べたりもしていました。その中で、UK では毎年13000頭前後の SBT が登録されており、常にベスト5に入る人気犬種だということや、(ちなみに日本では毎年80頭前後が登録され、人気ランキングでは80位前後のようです。) SBT ではCHとなれるのは1000頭に1頭の割合でしかないことや、SBT はテリアグループの中でも最も活発にショー活動が行われていることなども知りましたが、所詮日本とはかけ離れた遠い国の話として見聞きしていました。しかしこの春 RIKI を迎えその親や兄弟達が実際にドッグショーで活躍している様子をブリーダーさんからメールで教えていただいたり、Netなどでショーの結果に RIKI と同じ Affix を見つけたりすると、これまで遠い国の話だったドッグショーが身近に感じられ、より興味を持てるようになりました。そこで再度 SBT のドッグショーについて調べ直し少しまとめてみましたので興味のある方はご一読ください。

ドッグショーと一言で言っても、まず全犬種を対象として行われるものと、各犬種のクラブ等が主催して単犬種のみで行われるものに分けられます。またショーのレベルとして、CHになる資格である CC(Challenge Certificate) が与えられる Championship Show や、各クラブ等が主催する参加に制限のない Open Show とクラブのメンバーが参加できる Limit Show などに分けられます。SBT に於いては、年間38回の Championship Show が行われ、その内25回は全犬種のショーで残りの13回がクラブ主催のショーということのようです。各ショーでは、Crufts のような大きなショーでは300頭以上、中規模のショーでは200頭前後、小さなショーでも100数十頭以上の SBT が参加しています。また各クラブ主催の Open, Limit Show は年間40回前後行われています。つまり SBT 関連のショーだけで年間80回近く行われていることになり、週1回以上のペースです。とくに7~8月はほぼ UK のどこかで Championship Show が行われておりショーのベストシーズンとなっています。

ショーに於いては、雄雌各々12のクラスに分かれて順位が競われ、各クラスにおいて基本的に1~5位が決められます。そしてそのショー全体で、雄雌各々で Best Dog、Best Bitch および2位となる犬が選ばれ、Puppy クラスでも雄雌各々で Best Puppy Dog、Best Puppy Bitch が選ばれます。またこの全ての中で最も優秀な1頭に Best In Show が与えられ、Puppy クラスでは、Best Puppy In Show が与えられます。また全犬種のショーとなると、各犬種ごとに Best Of Breed が選ばれ、犬種のグループごとに1位が決められ、ショーに参加した全ての犬の中から1頭に Best In Show が与えられます。Championship Show ではこれらの Best Dog、Best Bitch に CH になるための資格である CC が与えられ、2位の犬に RCC (Reserve Challenge Certificate) が与えられます。

さて他の国ではこの CC が与えられた時点で CH となるわけですが、UK ではこの CC を最低3個以上獲得しないと CH にはなれません。またこの CC を与えた Judge が同一人物

でも CH になることはできません。つまりそれぞれ違う Judge から 3 つ以上の CC を与えられないと CH にはなれないということです。これだけでも大変厳しいシステムのように思いますが、UK では CH なるのが本当に難しい理由はほかにあります。それはこれらのドッグショーにはいわゆるどんな犬でも参加できるのです。つまり CH も参加できるのです。CH は優秀なので CH に選ばれたわけですから CC を獲得する確率も高く、他の犬が CC を獲得するチャンスは少なくなってしまう。1 つの例として SBT では、数年前まで現役で活躍していた、Ch VALGLO CASANOV AT CROSSGUNS は、40 個の CC と 16 個の RCC を獲得し、SBT の CC 獲得数の記録ホルダとなっていますが、このように同時代に抜群に優秀な犬がいると、CH になることがより難しくなってしまうのです。しかし、そんな場合でも、新しい CH が生まれないということではないようです。RIKI のリーダーさんの話によると、いくら優秀でもスタンダードに 100 パーセント合致した犬はいないということです。またもう 1 つなるほどと思った話として、自分の犬をショーに出すとき何を基準にショーを選ぶかということ、Judge が誰かを見て決めるということです。SBT Annual などを見ても、CH といってもみな同じではなくいろいろなタイプの犬がいるように素人の私にも見えます。つまりスタンダードと言っても、その解釈や重みをおくポイントが Judge により異なるということで、平たく言うと Judge により犬の好みが違うということのようです。結局は好みかと思われるかもしれませんが、それをキチッとシステム化してショーを行い、なるべく公平になるように CH を決めていくということが大切なのだと思います。また重要なのは、これらの Judge も常に公の評価を受ける立場にあるということです。Judge は自らショーを滞りなく進行するとともに、公平な評価をしなくてはなりません。そしてショーの後には、各クラスで自分が順位を与えた犬に対し、Critic として文章で評価を公開しなくてはなりません。これらに疑問があるようならば、次に Judge に選ばれることはありません。また Judge は各クラブが主催する Open Show や Limit Show から自らの評価を積み上げていくシステムで、Championship Show ともなると名の通った Judge でも 1 年に 1 回選ばれるかどうかというレベルのようです。そんな中 10 回以上も Championship Show の Judge を経験している人となると、大変な名誉であると同時に、その評価自体も大変公平で重みがあるということになり、それゆえに人々の尊敬も受けており、各クラブでも重要なメンバーになっているようです。

また SBT においては、年間を通したショーの成績を全てポイント化し、そのポイントの合計により、年間を通した Best Stafford、Best Opposite Stafford、Best Puppy などが選ばれ Annual 等の表紙を飾ります。その中には、繁殖した子犬のポイントの合計により Best Stud なども選ばれます。このように、言ってしまうとただの犬の好み的问题をシステム化し、できるだけ利権などが入り込めないものとし、公平に評価していこうということがここまで徹底しているので、参加する方も真剣で、本気で競い合えるのではないのでしょうか。例えば、世界最大のドッグショーと言われている Crufts では、全犬種にわたり 1 万頭近くの犬が参加し、1 週間近くの日程で行われ、その様子はテレビ中継されるとのことで、

これを見るとドッグショーがすでに1つの文化として認められているという証のようにも思えます。もちろんこの Crufts には、SBT も毎回350頭前後の犬が参加しており、ショーの中でも人気を博しているようです。そしてこのショーに参加するためにも、各 Championship Show において一定の成績を収めることが条件となっており、ここに参加できるレベルの犬は、Crufts Quality と呼ばれ、1つのステイタスとなっているようです。ちなみにここに参加できる犬は、SBT では100頭に1頭位の割合のようです。

さて私としては、RIKI を通してそんな世界を身近に感じられるようになり、犬を通した楽しみがまた1つ増えた思いです。もちろんそこに参加できないのは残念ですが、犬と暮らす楽しみはそこだけにあるのではなく、SBT を飼う面白さもほかにもたくさんあると感じており、今は RIKI の親兄弟達の活躍を追うことで十分楽しんでいきます。

また興味のある方は、Staffords u.k. (URL; <http://www.staffords.co.uk/>) の Show Info や [highampress.co.uk](http://www.highampress.co.uk/default.asp) (<http://www.highampress.co.uk/default.asp>) の Dog Show Results などショーの結果を見ることができます。